



川柳公論社代表、「川柳はいふう」主宰／女子美術大学特別招聘教授／Web川柳博物館(朱雀洞文庫)管理人

川柳とは

サラリーマンや主婦、子どもを対象とした一般公募の川柳コンテストはすでにおなじみです。生活者の本音を面白おかしく描いた作品には、くすっとさせたり、なるほどなと感心させられたりします。

川柳は五・七・五で綴られた日本の伝統短詩ですが、短歌のように万葉語をつかったり、俳句のように切れ字や季語を使うなどの制約がありません。いま思っていること、感じたことを口語体で素直に五七五にまとめます。

川柳を川柳たらしめる要素は「穿(うが)ち」「おかしみ」「軽み」と言われています。「穿ち」は、皮肉や風刺のこと。「おかしみ」は、滑稽味、ユーモアのことで、これを「軽み」をもってざらりとよみます。しかし、この三要素にとられる必要はなく、人間を直接描けば川柳になります。自由に作っていいのが川柳の面白さです。

川柳の発祥は台東区、生みの親はまさしく「川柳」

川柳は、俳諧から生まれたもので、「七・七」を前句(題)として出題し(前句付)、これにあった「五・七・五」(付句)を競ったことから始まりました。その生みの親が「柄井川柳」(からい せんりゅう／1718～1790年)です。柄井川柳は、現在の台東区蔵前にある「天台宗龍寶寺」の門前に住んでいました。前句付の点者(作品を選ぶ選者)として、現在の公募コンテストにあたる「万句合」(まんくあわせ)を興行すると、これが大評判となりました。これをもとにまとめた句集『誹風柳多留』も大ヒット。この本では前句はなく付句だけを掲載したことから、これ以降、付句だけの句を「川柳」と呼ぶようになりました。

「天台宗龍寶寺」は別名「川柳寺」と呼ばれ、柄井川柳の菩提寺になります。現在の春日通りと新堀通りの交差点付近には「川柳発祥の地」の石碑があります。この地で最初の万句合が開催されたとされています。また、「天台宗龍寶寺」前の通りは、「川柳横丁」と呼ばれています。



柄井川柳



川柳発祥の地

応募用紙

投句いただいた作品はすべて、お名前(もしくは柳号)と共に後程広報物・ホームページなどに掲載させていただきます。

お名前を掲載してほしくない方は、お名前掲載 不可として頂くか、柳号の記入をお願い致します。

応募される方は※印は必ず記入してください。

お名前※

(お名前掲載 可・不可)

柳号

所属(学校名)

お住まいの
地域※

- 1.台東区
- 2.東京都内
- 3.その他()

e-mail

お電話番号※

川柳 ③	川柳 ②	川柳 ①
---------	---------	---------

お一人様3句までのご応募です。